

おがわ

小川村ふるさと通信

No. 221
(2020年春号)



雪がちらつく中、小川の里で早春の福寿草に出会いました。その花の中側は虫を呼ぶ為に外側より 10℃も高いことがあるそうです。

(写真 松本博充)

- 熟年大学
- 分館紹介 - 稲丘西分館 -
- 福祉大会
- キッズチャレンジ
- 図書だより • 成人式
- ワインの夕べ



小川の総合学習塾

「おがわ熟年大学」

令和元年10月、台風19号による千曲川決壊から甚大な被害を及ぼし、復興に向け全力で取り組んでいる最中、新たな熟年大学をめざし10月23日に開校しました。例年、地域活動、農作業が一段落した10月から3月に講義、視察研修を中心に年間14講座に取り組んでいます。講義内容も好評であり年々熟大生も増えて本年度は63名となりました。

10月23日の開校式に来賓として染野村長、北田教育長をお迎えし、ご祝辞と塾大生に激励のお言葉を頂きました。

第一回講義は村内在住の万葉の世界研究所長、花田隆夫氏の令和元年「万葉の世界」絵画を楽しむ講義・実技が行われ万葉時代の世界を浮かべながら葉画を楽しく書きなが



ら身近の自然と触れ合い癒しの時を過ごしました。今後の教室開校を期待します。

第二回講義は、11月7日午前「知って得する薬の正しい使い方」と題して長野県薬剤師会の笠井公美子薬剤師による身近な薬を分かり易く安全な使い方、いざという時にどうするべきか判断のチェックポイ

ントや救急車の呼ぶまでの症状等の日常の大切な講義でした。

午後からは、感性学習の一環として人気の音楽鑑賞「民謡と津軽三味線」謙竹会山本謙竹氏はじめ10名の三味線の迫力ある素晴らしい演奏と、師匠謙竹さんの演出もあり演者と塾生との一体となった歌声は心に残る民謡独特の土地の匂いを感じた人



興味あふれる演奏会でした。

また、19号台風被災に対し、被災地への演奏支援と本日の講演料全額を寄付するとの発表に感銘を致しました。

さて、熟年大学最大イベントの校外視察研修が11月20日開催されました。過去には、産廃環境会社、食品会社、歴史施設等の視察研修を実施し資質向上を図ってきました。



今回は、中野市の日本土人形資料館での「人形絵付け体験」を実施し普段使っていない絵筆や手の筋肉をフル活動し世界で一つの「犬」「ウサギ」の絵付けを堪能して来ました。作業中の熟大生は、無口の上真剣な態度は幼少期の純粹なほほえましい容姿が伺われました。



初の絵付けに精力を費やした疲れ気味の塾生を迎えていたのは昼食「ランチバイキング」でした。満面の笑顔と食欲旺盛なお腹が元気に微笑んでいました。午後は、飯綱町のワイナリー「サンクゼールワイナリー」を視察し日頃楽しんで飲んでいるワインの栽培、製造過程を視察し、各種ワインを目に焼きつけながら大人の雰囲気浸って来ました。



例年12月1日に社会福祉協議会、健康センターとの協賛で開催している文化講演会が300人余の参加者を迎える午前は福祉大会で講師の堀内宗善氏の「四肢麻痺で楽しく生きる」と題して講演がありました。バイク事故の後遺症で身体状態は右腕がかるうじて動く程度で、障害者の手足である高性能車いすの出現で街中を自由に動く楽しみと多くの友との親交に喜びを感じ生きる強さと姿勢に感銘しました。

午後の文化講演は、笑いと人生と題して落語家「林家

木久扇」師匠が弟子と共演しながら下積み時代の苦勞談と俳優の声帯模写、人気番組「笑点」の裏話や大きな病気を乗り越え人生を笑いに変えての話に会場が柔らかな雰囲気につつまれました。最後に村民からのプレゼント



として、座布団10枚を贈り記念写真をとり講演会を終了しました。

12月8日第71回の人権週間にあわせ「私の人生」として富永房枝（風子）の音楽と生きる意義の講演がありました。風子さんは手足、言動が不自由

であるうえ足によるエレクトーン演奏は健常者と全く同様な演奏に感銘し、その努力には敬意を表しました。また、足を使って色紙に筆ペンで書いた達筆な文字は素晴らしく、生きる強さを学びました。

午後には、北信教育事務所小島豪主事の人権講義では教育界の課題、問題点を取り上げ、家庭、地域における人間形成に参考になり実践の重要性を認識致しました。

令和2年最初の講義は1月16日信州大学工学部教授松澤恒友教授による健康で美味しい「ながのブランド」創出による地域貢献と題して、長野県特産農産物の付加価値食品開発について、エノキヨーグルトの試食と市田柿の商品化やエノキのガン効能等安心安全の信州産農畜産物の開発拡大戦略を学習しました。



午後は、台風19号災害の教訓を生かしての信州大学理学部原山智教授による大地震！その時あなたは大丈夫？講義が開催され、小川



村の断層と地震に対する基礎知識を学習しました。地震が発生した時の対応策を学び、特に「地震災害は人災だ!!」・災害は忘れていから大きくなる・安全と健康はタダではない・常に状況を客観視せよ。あたり前が実は危ない！と警告指導があり、いつ自然災害が発生しても

不思議でない日本列島。地域全体の学習、訓練の重要性を感じました。

講義も終盤を迎え2月13日は、地域活性化と健康について学習しました。

午前は、松本大学白戸洋教授による「地域を壊す教育から地域を創る学び」と題して若者（学生）が地域にどのように入り貢献できるか、地域とのかかわり方の学習について教授が理論と実践をもつて体験を話され貴重な地域活性化の取組が明確となりました。

また、学生達が弱者支援としてリヤカーによる野菜、果物等の販売を市内各所で実施。そして、真剣に地域や住民のため、世のため、人のために活動する人は激減。



これからの世の中はますます疲弊するとの警告。

午後は、「自分にあった健康寿命」と題し理学療法士加藤弘貴氏による講義と実技があり、小川村民と関わり12年。すっかり西山弁を使いこなし小川村健康大使とし村民のために健康活動に感謝を申し上げます。

半年間にわたった「おがわ熟年大学」は3月7日に修了式を迎え閉校となる予定が、中国で発生した新型コロナウイルス感染症防止のため、講義・修了式が中止となり、書面での修了式となりました。素晴らしい講師陣を迎え14講座が熟大生は勿論、公開講座受講の皆さんに大きな知識並びに喜びと楽しみをもたらしたことと思います。これからも少子高齢化が進展する中で、小川総合学習塾「おがわ熟年大学」が社会教育並びに生涯教育の発信拠点として多くの皆様とともに活動を進めてまいります。今後ともご指導、ご支援をお願い申し上げます。



分館紹介

稲丘西分館

内容を絞って実施

稲丘西分館は、上組、日本記組、高山寺組、中牧組で構成する六十世帯ほどの小さな分館です。近年は、世帯数・人口も激減し、分館活動も内容を大きく絞って実施をしているのが現状です。

それでは早速、主な事業を紹介したいと思います。

◆区民親睦旅行

例年、大型バスを仕立て、観光、親睦を楽しむ分館最大の行事です。以前は、朝早く出発し遠出をしたことも多かったのですが、近年は、ゆったりした行程が好まれる傾向にあり、一昨年度は上田城址から草津温泉、昨年度は海野宿から菱野温泉を目的に実施をしました。

本年度は、松本で行われた「信州花フェスタ」を散策し、安曇野蝶ヶ岳温泉に移動し、親睦を深めたところです。

花フェスタでは、夏和分館、上野分館の皆さんとも一緒に緒になり、さながら「小川村デー」といったところでした。

◆敬老会

毎年、七十歳以上の高齢者の皆さんをお招きし、ご長寿をお祝いしています。本年度は、平成から令和への改元が行われたことから、記念植樹に協力していただきました。樹高3メートルほどのモミジを、星と緑のロマン館様のご協力により、駐車場入口付近に植えさせていただきました。

このモミジが日々成長し、鮮やかな色彩を放ち、ロマン館を訪れる皆さんを楽しませてくれることを期待したいと思います。

植樹後は、公民館の出前講座として「絵手紙」を楽しんでいただき、その後、懇親会へと移行したところです。

絵手紙では、野菜や果物などを題材に、釜蓋の北田豊茂さんのアドバイスを受けながら和やかに楽しいひと時を過ごすことができましたが、昨年暮れに北田さんの訃



報に接し、驚きを隠せず、ただただ残念でなりません。誌面をお借りし、改めて感謝を申し上げるとともに、ご冥福をお祈りいたします。

◆名所めぐり

ここ数年実施をしている、比較的新しい事業です。大人の社会見学、親子の遠足といった雰囲気、近くにありながら、意外と訪れたことのないような場所を選んで実施をしています。

一昨年度は松代地下壕でガイドさんの説明を聞きながら歴史に触れ、昨年度はアパリゾート上越妙高でイルミネーションを堪能しました。

本年度は、大町市の高瀬渓谷を訪ね、見事な紅葉を狩るとともに、大町ダム、高瀬ダムの見学と歴史を学ぶことができました。

◆分館活動今昔

今回、当分館の事業を振り



返った時、私が最初に分館役員を務めた昭和五十年代中頃から六十年台前半とは、事業量が大きく様変わりしていることに改めて気づかされました。

ここで、当時にちょっとタイムスリップしてみたいと思います。当時は分館活動に加えて本館事業も多く、特にお盆の時期は、十三日は盆踊りの舞台組みなどの準備に追われ、十四日は朝から本館主催の分館対抗球技大会（男性は軟式野球、女性はバレーボール）へ参加。地元に戻って慰労会もそこそこに盆踊りの初日を迎え、翌十五日は早朝から釣り大会、そして二晩目の盆踊り。さらに十六日は後片付けと、目まぐるしい日が続きました。

また、区民運動会、村民運動会も開催しており、活気に満ちていたことが思い出されます。

時の移ろいとともに、活動の内容も変わるのは必然ではあります。これからも、時代のニーズに沿った公民館活動、分館活動が続いていくことを願ってやみません。

（松下記）



稲丘西分館長
松下 一久さん



社会福祉大会



令和元年の社会福祉大会は堀内宗喜さんの講座と、林家木久扇さんの文化講演会をメインに開催されました。

堀内さんは二十二歳の時にバイク事故に遭い、四肢麻痺でかろうじて右腕が動く程度の障害を負いましたが、進化した車いすで街中へあちこち出掛けるそうです。そうすると、車いすでなければ見えない景色（不便なことも嬉しいこと）もあるそうです。出来ない事は周りの人に助けを



求め解決し、その関わりから障害理解に繋がれば、と思つていらつしやるそうです。事故から「人に頼る」「人と比べない」「みんな違う」「自分を愛する」「自分はどうかしたいのか」を学んだそうです。私も、「何かお手伝いしましょうか？」と行動に移したいと思います、

木久扇さんの講演会は『笑点』の裏話や、ご自身二度の癌治療を乗り越えたことを楽しく話して下さいました、落語家としての終点はなく、喋れるうちは現役だそうです。





人権フォーラム



人権フォーラムは風子さんこと富永房枝さんと、北信教育事務所の小島豪さんの講演でした。

風子さんの足の指が私達の手の指とあまり変わらずに動くことに驚きました。「出来ないことが悔しくて絶対やってやる」と思う性格のおかげでキーボードを弾いたり、書や絵手紙を書いたり、ペットボトルのキャップの開け閉めも出来るそうです。四年程前から一人暮らしも始めたそうで、手助けは必要だけれど障害者も一人の人間として暮らしやすい社会になる助けになれば、と願っているそうです。

午後の小島さんの講演は、人権を分かっているようでまだまだ分かっていないことがあるんだと再確認できました。第一印象や見た目の判断でその人をずっと見るのではなく、様々な角度から見たり、気付いたりできると人権の尊重に繋がるそうです。

「心のバリアフリー」「言葉のバリアフリー」

「みんな違ってみんないい」大切にしましょう。

キッズ チャレンジ クラブ

キッズチャレンジとは平成21年より活動を行っている小学生を対象とした社会教育事業の一環です。小川スポーツふれあいクラブと公民館が共催で実施しており、年間を通じて「いろいろなスポーツ・アウトドアを楽しもう!!」という目的で今年も様々な活動を行ってきました。

今年度も5月から開催し、最初のキッズチャレはびつくらんどにてニュースポーツであるポッチャとラダーゲッターに挑戦しました。初めてやる子供も多く、最初は苦戦していましたが、チームのみんなと協力して楽しんでいる姿が印象的でした。

6月は役場の総合戦略推進室との共同事業で都市部の方を講師に招き小川村のいいところ探しを行い、皆で見つけたいいところを集め大きな案内マップも作成しました。



7月は立屋の森もり館にてウッドクラフトを行いました。梅雨の晴れ間が覗く中、フォレストワーク中島先生の指導の下、様々な太さの木の枝や松ぼっくりを利用してツリーやウエルカムボードなどの作品を作りました！

暑い日が続いた8月は飯綱町の霊仙寺湖にてカヌー体験を行いました。晴天のもとで行うカヌーはとても気持ちがよく、最初は怖がっていた子どもたちも、時間が経てば池の対岸付近まで進むようになり、成長の速さを感じました。

ラグビーワールドカップで盛り上がった9月には、びつくらんどでタグラグビーを行いました。初めてラグビーボールを触ってみた子も多かったですが、最後には試合も行い、皆が楽しんでボールを追いかけられる姿が見られてよかったです！



11月は6月に来ていただいた講師先生のもと、村外の子ども達も参加し、交流イベントとして大洞高原にてフィールドワークを行いました。山登りや火おこし体験を通じて子供たちの協調性やコミュニケーション力が高まったと思います！

12月はニュースポーツにチャレンジしました。種目はピロポロとドッチビーでした。ピロポロはホッケーのような競技で、打つところが柔らかい素材のスティックにスポンジ素材で出来たボールを打つので、ボールコントロールが難しく、そこが面白い種目です。ドッチビーはボールの代わりに、材質がスポンジで出来たフリスビーを使い、ドッチボールのルールで行うスポーツです。どちらもルールが簡単でゲームを楽しむことが出来ました。

1月はスキーで、今シーズンは積雪が少なく滑走できるコースが限られるのではと心配しましたが、概ね全コース滑走出来る事が確認でき安心しました。子どもたちも元気いっぱい滑ってきました。

キッズチャレンジでは子ども達がさまざま体験や学習をつづじて自身の成長につながるような「場」になることが重要であると考えます。これからも子どもたちにとってキッズチャレンジクラブが有意義なものとなるよう、いろいろな形を模索しながら成長・発展していきたいと考えます。

今年で10年目を迎えた
キッズチャレンジ!!
子ども達と共に成長しています!!

12月7日

『冬のおはなし会&クリスマスパーティ』

士で誘い合って参加してください。お待ちしております。

来年度も図書委員会ではイベントを企画しますので、ぜひ友達同

味を持ってもらう為に工夫を凝らして読んだ甲斐もあり、みなさん
静かに聞いてくれました。

「ヒロ君」こと協力隊の廣田さんを講師にお迎えした
ピザ作りは大人にも子どもにも大好評で、班によつ
て盛り付け方は様々です。具沢山のピザや立体的に
盛り付けのピザ等があり、出来上がったピザはみん
なで美味しく頂きました。



12月7日に図書委員会主催
の「冬のおはなし会&クリス
マスパーティー」を行いました。
今回は親子三世代で参加して
頂いた家庭もあり、とても楽
しく過ごす事が出来ました。

図書イベントでお馴染みの




図書室だより

小さな木の実

第102号
図書委員会

ブックスタート

～生後6ヶ月の赤ちゃんへ本のプレゼント～

『子どもに読んで聞かせたい本は？』

平成31年3月から
令和1年6月生まれの赤ちゃん

「はじめのおつかい」
筒井頼子/林明子



おた 太田
うたろう 宇泰朗くん

「どろんこハリー」
シオン・ツーン



さかい 酒井
ゆうせい 優生くん

「パーパパシリーズ」
アネット・チソン



ちの 千野
さちか 紗慈ちゃん

『心に残った一冊の本』

- ①名前（敬称略）②子どもの時好きだった本（題名／作者）
③子どもに読んでほしい本（題名／作者）④本にまつわる思い出ばなし

①小川村教育長 北田愛治 ②『シャーロックホームズの冒険』／ Doyle、アーサー・コナン

③『鳥ひきおに』／山下明生

④小学生4年生と国語教材として読みました。「優しい鬼なのになぜ漁師は遊んであげないのか」「鬼が突然現れたら無理だよ」「漁師はだましたり、言い訳したりと卑怯だ。鬼がかわいそう」等、叙述を基に話し合いを深めました。最後には、人間の言葉を信じ相手を求め大海を彷徨う鬼の友達になりたいと、一人一人の子どもが、鬼を理解する方法を考え、続きの話を書いた子どもたちでした。優しい鬼なのに、村人には理解されないもどかしさ、せつなく割り切れない思いになる話です。考えることが多く、とても良い学習ができた思い出に残る本でした。



①小川小学校校長 小林亨 ②『彦一とんち話』『吉四六さん』

③『アラビアンナイト』

④小学3年生の秋の読書週間で、担任のM先生が毎日放課後、組の子ども全員を図書館に連れて行ってくださいました。そして、「みんな、本を借りていけ。読書週間にたくさん本を読みなさい。」という内容のことを言われました。この週間で、本を読むことの楽しさを知りました。本を読む習慣も身につきました。M先生のご指導に心から感謝しています。その当時、夢中になって読んだ本が、「彦一とんち話」や「吉四六さん」です。昔話は意地悪だったり現実離れしていますが、人間らしくて哲学的でもあり、とても引きつけられます。世界の昔話も大好きです。



①小川小学校教頭 山本直佳 ②『若草物語』／オルコット

③『トム・ソーヤの冒険』／トウェイン、マーク

④兄が小学校に入学した時、父が幼い兄妹の為に買い揃えてくれたのが、「少年少女世界文学全集」。ピノキオにガリバー旅行記、宝島にベン・ハー…美しい挿絵に見とれながら、夢中になって読みおけりました。特に何度も読み返したのは、女子の憧れ「若草物語」と続編「愛の四姉妹」。私の“推し”は、明るく洗練とした次女のジョー。でも、この物語で最も心惹かれたのは、引っ込み思案の三女ベスが、お隣の気難しいローレンス氏の優しさに触れ、心通わせていく様子。人と人が心の距離を近づけていく様は、読んでいてとても幸せで、いつまでも挿絵を眺めたいりました。子ども達には、本の世界で沢山たくさん泣いて笑って、大きくなって欲しいです。



①小川中学校校長 新井孝之 ②『日本沈没』／小松左京

③『竜馬がゆく』／司馬遼太郎

④子どもの頃は、映画化された本をよく読みました。映画で情報が入ってくるので、とても読みやすいし、内容が理解しやすくなりました。読書を好きになるには、よい方法だったかもしれません。「竜馬がゆく」は大人になってから読みました。内容はともかく、全8巻読み終えた時の爽快感という達成感は忘れられません。聞くところによると、プロ棋士の藤井聡太さんは、この全8巻を小学校5年生の時に読み終えたそうです。小学校高学年くらいからチャレンジできると思います。この「竜馬がゆく」を読み終えたら、同じく司馬遼太郎さんの書いた「坂の上の雲」にチャレンジしてみましょう。



①小川中学校教頭 小林浩一 ②『ラチとライオン』

③『ハチドリのはとすずく』

④子どもの頃、母親から初めて買ってもらった本が「ラチとライオン」という絵本でした。ラチは世界で一番弱虫です。そんなラチのところに小さな強いライオンがやってきて、ラチはライオンがそばにいてくれることで少しずつ強くなっていきます。ある日、勇気を出していじめっ子から友だちのボールを取り返した時、ライオンの姿は消え、手紙が残されるというお話です。小さな赤いライオンの不思議さと少年の成長する姿が好きで何回も読んでいました。



①ここにこ保育園園長 柳澤史樹 ②『スイミー』／レオ・レオニ

③『スイミー』／レオ・レオニ

④私のお気に入りとお勧めの本は、絵本の「スイミー」です。ご存じの方も多いと思いますが、孤独を感じることを、仲間と力を合わせることを、冒険、仲間との達成する喜びなどの要素が、物語になっています。小さい頃はこの物語の「冒険」を楽しんでいたと思います。大人になってからは、この物語から、個性の大切さや、仲間との協同、困難であっても考え実行することなど、改めて考えさせてくれます。小さい子も、大人の人もぜひ読み返して、それぞれに感じながら、大切なことを見つめ直すことができると思います。



成人式

1月3日、小川村公民館にて、令和になって初めての小川村成人式が行われました。小川中学校平成26年度卒業生23名のうち19名が出席。大人の仲間入りをした新成人の門出を祝福しました。



式前には友人たちとの久々の再会を喜び、話に花を咲かせている様子がかがえしました。見慣れないスーツや着物姿に、お互い大人になったなあという実感もあったでしょう。式が始まり、スポットライトを浴びて入場していく場面では、まさに今、新たな一歩を踏み出していくかのような希望に満ちた姿に、頼もしさが感じられました。

新成人代表挨拶や記念論文の発表では、中学校卒業後にそれぞれ



が学んできたことや感じたことについて述べられ、今まで支えてくれた人たちへの感謝を述べるとともに、これからの決意を語りました。

また、記念行事として、小川村出身で新成人の先輩にあたる西澤聡一さんが所属する「舞響太鼓 雅（みやび）」による和太鼓演奏で新成人にエールを送りました。西澤さんは「今の自分は成人式の時には想像していなかった自分です。迷ったら挑戦してください。今を大切にしてください。」とメッセージを述べました。



(以下一部抜粋して掲載)



【新成人代表挨拶】(戸谷奈桜実さん)

私は今、小川村を離れ東京で生活を送っています。落ち込むことや辛いことが沢山あり、どうしても前を向くことができない時、いつも思い出すのは小川村です。大好きな小川村で成人式を迎えられることを心から幸せに思います。皆様からのご恩を忘れず、これからの人生を力強く歩んでいきます。



【記念論文】

二十歳になって(清水 大輔さん)

私は去年の4月に就職し、社会人となりました。夜遅くまで残業をすることもありますが、それでも辞めずに続けていられるのは、相手の役に立ちたいという自分の強い気持ちの表れだと思います。これからもこの思いを大切に精進するとともに、お世話になった方々へ恩返しができるように励んでいきます。



【記念論文】

将来の夢(小布施 絹さん)

私は今看護の専門学校に通っています。元々は保育士を目指していましたが、高校二年生の冬に看護師の講話を聴いて感銘を受けました。理系へ転じた高校三年生の一年間はとて大変でしたが、志望校に合格することができました。スーパーナースになることが私の夢です。

式の終盤では、新成人一人一人が抱負を発表しました。中には、今は県外にいるが小川村に戻ってきたいと話す人も。将来が楽しみです。

終始和やかな雰囲気の中行われた成人式。また、式終了後には、クラスメイトの自宅に保管していたというタイムカプセルを開封し、未来の自分に向けて書いた手紙に思いを馳せるなど、懐古の時間となりました。



音楽とワインの夕べ



2月8日(土)、小川村公民館で第11回「音楽とワインの夕べ」が開催されました。今年は6組の演者による素敵な歌や演奏とともに、ワインを嗜みました。

1組目は、MMRフルートアンサンブルの皆さん。総勢10名での合奏や四重奏などフルートの幅広い音域と音色の深みを存分に

楽しめた演目でした。続く2組目は、成就の川又智恵さんによるコカリナ演奏。オカリナではなく、「コカリナ」です。まるでエコーがかかっているかのような、のびやかに響く音色。習い始めたばかりとは思えないほど美しい演奏でした。

乾杯をはさみ登場し

たのは、もはや名物演者!?バイオリンスト和田博之さん。今年にはアラジンやリーチマイケルなどのコスプレ早着替えを披露するとともに、計9曲を披露し会場



を沸かせました。次に登場したのは、今年成人を迎えたばかりの戸谷奈桜実さん。可愛らしいルックスと洗練された歌声の弾き語りに心奪われました。5組目、麦ダンス農園を営む大沢収さんはブルーハーツの楽曲を弾き語りです。思わず口ずさんでしまうメロディに体が自然と揺れました。そしてトリを務めたのは、流暢な司会で場を盛り上げた徳武道人さんと、繊細な音響技術で演者の魅力を引き出した和田優孝さんによるデュエット。抜群のハモリが心地良く、「上を向いて歩こう」では全員の手拍子で一体感が生まれました。音楽とワイン。なんて素敵な組み合わせ。今年も贅沢な時間となりました。

